2021 年 10 月 24 日　袋井子育てネットワーク　みんなのぽっけ主催

袋井市議会議員さんと語ろう テーマ別報告

第 2 回袋井市議会議員さんと語ろう、オンライン座談会でいただいた主な意見をテーマ別にまとめました。

テーマ1：コロナ禍の子育て

主な意見

コロナ禍の影響。精神へのダメージ

- コロナには関係のない人も、不安で過呼吸などの症状が出た人もいた。
- 自主休園の時、妊婦や産後間もない人たちは上の子を自主休園させたが、ワンオペの状態で夏休みからの延長でもあったことからイライラしたり、鬱っぽくなる人が増えた。
- スポーツ大会に出るために、修学旅行にいくと 2 週間、練習に出れないということで修学旅行を諦める子がいるということが悲しいと思った。
-

子どものマスクは必要？ コロナ対策の見直しが求められている

- 感染対策をどこまでするのか検討する時期に来ている。公園でのマスクが本当に必要なのか？本当に衛生的なのか？
- 活動セーブしている。鍵盤ハーモニカができなかったり、リコーダーやれない。
- 保健室で休めない（落ち着くまで入れない場合も）。SC の充実
- マスクの弊害で子供たちの発達にコミュニケーション能力の低下や筋力の低下から短い時間でも姿勢を維持ができないなど影響が出始めている。反対に、経済活動のため、マスクをしない大人、黙食しない大人がいる。こどもへの制限と大人たちの制限状態に矛盾を感じる。

コロナ禍の良かった点、オンライン学習の浸透と、教員支援員の拡充が進んだこと

- コロナで、オンライン学習が進んでメリットもあった
- コロナ対策の支援員が増えたことで担任の先生のフォローが充実してよかった。（今年度は予算がつかなかったため、増員されなかった）教員の働き方改革にもつながるのでは。
- 大変なこともたくさんあるが、近所の子と遊ぶこともできた。機会が増えて。順応性もたくましさを感じる。

企業側の対応

- コロナ禍では、企業の特別休暇、防疫休暇が会社によって対応が違う。それぞれの会社が国や市の指導に従うことは難しい。

要望・アイデア

頼れる人、コミュニティを、時間が無い中でどう作ればいいのか？

- 核家族で周りに頼れる親族がいない。万が一感染したとき（買い物にいけない。隣近所に頼れる人がいない）そういったとき、どうすればいいのか教えてほしい
- 登校、出席停止の明確にルール化し、共有してほしい。市民の個人判断では、基準がバラバラで感染の不安がある。
- 親子で感染した場合の制度は必要。
- コロナのための体調不良も行政が指導してほしい。
- ペップトーク＝活力を与える言葉を使ってみてはどうか

テーマ2：少子化問題

主な意見

少子化の原因は何か

- コロナ禍で産み控えや不妊治療の中止などの影響で一時的に減ったともいえるが、それだけではないのではと思う。
- 5 年くらい前は袋井市から磐田や掛川に転出する 30~40 代の世帯が多かった。2 年くらい前のデーターだと、転出が少なくそのまま移住する人が増えてきたことがわかる。が、その要因が何かは分かっていない。

袋井市の現状

- （袋井市は）隣接する市と比較して子育てしやすい街だと評価をいただいている。
- 働きたいと思うような就職先が袋井にない。
  - →袋井の魅力の発信（ブランド化）が必要だと思う。
- 仕事がないとそこには住めない（採用の充実）。実際にコロナウィルスの影響で転居している方もいる。
- 少子化の問題は、隣接市も問題にしており、袋井市だけで取り組んでも解決しない。隣接する市と連携して取り組む必要がある。
-

仕事と子育ての両立が難しい。企業側が求める条件（勤務時間、時給）と、子育て世代が求めるあり方にギャップがある。

- 保育園に入れるまでのハードルが高い。→仕事が決まらないと保育園に入れないが、保育園に入れないと仕事探しもできない
- 児童クラブ、時間の融通が利かない。夏休み８時―１８時で、仕事を辞めざるを得ない人も 多い。社員からパートに変更し、収入が落ちる方も多い。
- 子育てにやさしい企業を増やしてほしい

独身者の現状「1 人でいても困らない」

- 結婚する人が増えない。一人でいても困らない。人生のプランの教育の大切さ。

経済面で安心できる環境・支援

- 今後、子育てしやすい町に発展するには、安定的な雇用、男女関係なく 17 時に帰れる職場、地域のつながりづくりが課題になると思う
- 給料・待遇・賃金 UP が大事
- 生活に困窮しないための経済補償が必要だと思う。

要望

地域住民、公共機関との交流強化

- 小さな頃から、幼稚園や保育園との交流をして、子供と触れ合う機会を持たせた方がよい。今、子育てをやっている親が、子育てを楽しんでいるところを見せるのも良い。
- 助産院など、産む場所の選択肢があることをママ達が知らない。もっと、その様な情報を広報して欲しい。
- 実際、子育てをしながら感じることは、「サポートしてくれる人がほしい」
- 地域で育てるのも大事だけど、現状は難しい人がほとんど。母親が全部背負ってしまいがち。
- （独身者向け）出会いの場をたくさん作ってほしい。街コンみたいなもの、市主催で開催してくれるといい。 マッチングアプリで婚活するのが本流になっているので、オンライン婚活や、オンラインで 会議など人が出会う場を作ってほしい。
- 熱がでても休みがとりやすい環境、預けられる環境の整備
- 価値観が多様化している。情報を共有、相談できる場所があるといい。
- 老人が知恵を教えることも大切だと思う。
-
・

テーマ3：ゴミ削減のアイデア出し

主な意見

ゴミ袋値上げで懸念されること

- 隣接する市の市民から袋井市がごみの値上げをすることで、隣接市にゴミの持ち込みや不法投棄されるのではないかと心配する声が上がっている。

ゴミ削減に向けた取り組み

- 会社で、プラゴミ（お弁当など）は綺麗に洗って水切りし、大きめの回収箱へ捨てるよう徹底している。また、ペットボトル等の資源は袋井東小、西小へ寄付している
- 「ごみを資源にまちづくり」 という本がおすすめ
- 発電、野菜栽培、バイオなど資源の有効活用している街がある
- 生ごみ乾燥機の補助金が以前はあったが今はない。
- 会社や社協で活用できる資源（アルミ缶、エコキャップ、使用済み切手）を寄付することで、活用してもらえるものもある。

ゴミ削減の意識づくりが大事

- 有料化が原料につながるのか？意識・行動を変えないとダメ
- 袋の有料化の前に市民に意識付けすることが大事。水切りを徹底するなどのリサイクルの意識が大事。

要望・アイデア

生ゴミを堆肥にする活動を仕組み化。畑のない市民も参加できるものを作る

- 生ごみをたい肥にする活動、畑を持っていない市民も参加できるような活動をして欲しい。
- コンポスト、鉢植えなど活用しているが、家庭環境（庭がない等）によってできる人できない人もいる。庭がない人は、生ごみの水切りだけでもいい。できることからやる必要がある。
-

ペーパーレス化の促進

- 地球温暖化対策の強化、ペーパーレス化を促進してほしい。なかなかごみ減量できない

ごみ削減の方法を周知徹底する

- ごみの教育を充実させるべき。市民意識の向上、頑張りを見える化する。子供たちをもっと巻き込んで環境教育をしてく方がよい。

- ＝フローチャートで各家庭出来ることが分かるようになるといいのでは。
- ごみの削減の目標値を決め、目標達成の為に市民全員で頑張る働きかけをしてはどうか。目標達成すると、ゴミの袋の値段を下げるとか市民が頑張ろうと思えるものを用意する。

・
・